

熊本フライト 双子の夢

安達さん兄弟

熊本地震で被災した熊本県の崇城大工学部で航空操縦学の



練習機の前に立つ安達航大さん
(左)と弟の雄大さん 19日午

後、熊本空港

熊本地震乗り越え 訓練生内定

を専攻する安達航大さん(22)と双子の弟雄大さん(22)がそれぞれ全日空と日航のパイロット訓練生に内定し、19日取材に応じた。20日に卒業する

2人は、校舎の損壊や授業中断といった地震後の困難を振り返りながら「教官や教授ら多くの人に助けられた。旅客機を操縦して熊本空港に戻り、恩返しをしたい」と意気込んだ。

2人は茨城県つくばみらい市出身。幼い頃に父と訪れた羽田空港近くの公園で、飛び交う飛行機を眺めたのが、空に憧れた原点だった。高校生になり操縦士を目指そうと決

意し、在学中に航空無線通信士の資格を取得。崇城大には特待生として合格し、2015年に入学した。

しかし、本格的な操縦訓練を前にした16年4月、熊本地震が発生。授業や訓練が一時中断し、その後プレハブの仮校舎や格納庫での授業が再開された。傷ついた街並みが復興する様子を見ながら飛行訓練をし、事業用操縦士などの免許を取った。

「切磋琢磨し信頼されるパイロットになりたい」と抱負を語る航大さんに続き、雄大さんも「一緒に航空業界を盛り上げたい」と力強く語った。